



環境・労働安全衛生報告書

Environmental, Occupational Health and Safety Report

2011

すばらしいこの地球を我々の行動で守ります

杏林製薬株式会社

ごあいさつ

東日本大震災に被災されました皆様方に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて環境問題は全人類に共通する問題として、全世界的な対応が求められており、企業においても地球環境の保全に責任をもち、その上で事業活動を展開する必要があることは言を待ちません。

さらに労働安全衛生面におきましても、従業員の多様性・人格・個性を尊重しつつ、安全と健康を確保する快適で働きやすい職場環境の実現が求められます。

当社は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します」という企業理念の下、2010年度から長期ビジョン HOPE100 を策定し、患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる医薬品メーカーを目指しています。

こうした中で、当社の地球環境の保全に対する取り組みとしては、1999年に野木工場が環境マネジメントシステムの国際基準である ISO14001 の認証取得皮切りに、2004年度には本社を含め、全ての工場、研究所、支店・営業所が ISO14001 の認証を取得いたしました。2009年4月に施行された改正省エネルギー法の対応としても、当社全体のエネルギー使用量の把握と中長期的なCO₂削減策の実施と検討に着手し、2010年度は2009年度のCO₂排出量を4.4%下回る成果を出すことができました。

さらに労働安全衛生の向上に対する取り組みとしては、2003年に野木工場、岡谷工場、能代工場が労働安全衛生マネジメントシステムである OHSAS18001 の認証を取得し、2004年度には本社、研究事業所、支店・営業所で認証取得いたしました。なお2011年3月11日には東日本大震災が発生いたしましたが、幸いにも人的被害は無く、事業所への被害も軽微でしたが、今後もより一層の従業員の安全の確保、事業継続などについての対策を講じていく所存です。

当社では現在、全社（本社、工場、研究事業所、支店・営業所）で認証を取得した ISO14001 と OHSAS18001 双方のシステムを統合し、EHS活動（※）という名の下で、効率的且つ効果的にシステムの運用を図っています。これらの活動は、従業員・関係者全員で取り組むことが重要かつ有意義であり、今後も地球環境の保全、職場の労働安全衛生の向上に積極的に取り組み、社会に貢献する所存です。

2010年度の環境保全と労働安全衛生の活動内容を「環境・労働安全衛生報告書」として取りまとめました。本報告書を通して、当社の環境保全・労働安全衛生に対する考え方や活動をご理解いただき、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(2011年8月)

杏林製薬株式会社
代表取締役社長

平井敬二



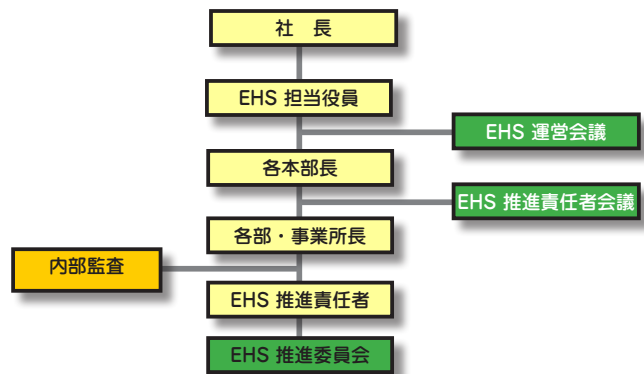
※ EHS: Environmental(環境), Health(健康), Safety(安全)の略
当社の社内用語として使用しています。

会社概要 (2011年3月31日現在)

社名	杏林製薬株式会社
創業	大正12年(1923年)
設立	昭和15年(1940年)
資本金	43億17百万円
本社所在地	東京都千代田区神田駿河台2丁目5番地
従業員数	1,804名
事業内容	医薬品の製造販売
事業所	創薬研究所、開発研究所 岡谷工場、能代工場 札幌支店、仙台支店、関越支店、埼玉千葉支店、 東京支店、神奈川支店、名古屋支店、 大阪支店、京滋北陸支店、兵庫四国支店、 広島支店、九州第一支店、九州第二支店 (13支店、87営業所)

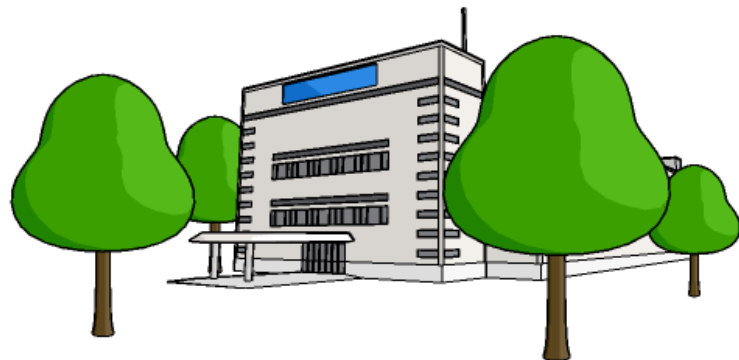


【EHS活動社内組織体制】



報告書目次

環境・労働安全衛生（EHS）方針	4
環境・労働安全衛生に関する報告	
全社重点目標（2010年度達成状況と2011年度の目標）	5
全社における1年間の環境との関わり	8
環境に対しての継続的な取り組み	9
事業所別活動	
研究部門の取り組み	10
製造部門の取り組み	13
営業部門の取り組み	17
本社の取り組み	19
その他全社での取り組み	21
企業の社会的責任	
当社のコンプライアンス・リスク管理に対する取り組み	23
公益通報者保護法への対応	23
社会とのコミュニケーション	24
当社EHS活動の歩み	27



環境・労働安全衛生（以下「EHS」という）方針

当社は、医薬品の研究開発、製造、販売等に係わる全ての活動において、杏林製薬企業行動憲章に基づき、EHSマネジメントシステムを経営の重要な柱として位置付け全社で取り組み、継続的にステップ・バイ・ステップで環境改善及び汚染予防に努めます。また併せて、労働安全衛生リスクの発生防止および予防の効果を高めていきます。

1. EHSマネジメントシステムの確立と維持向上

EHS担当役員は、EHS推進責任者を任命し、EHS管理の組織の責任と権限を明確にして、質の高いEHS活動を推進します。

2. 法規制の順守

EHS関連の法規・規制・協定等を順守するとともに、必要な場合は自主管理基準を設定し、EHSの維持、改善に努めます。

3. EHS上の負荷の低減

省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、化学物質の管理強化、作業環境の改善などのEHS目的・目標の設定と見直しを行い、環境及び労働安全衛生の負荷の低減に努めます。

4. 安全と健康の優先

人間尊重の立場から、安全と健康を全てに優先させます。

5. 継続的改善

本方針及び目標を達成するために、積極的に要員、設備、資金、情報を準備し、EHSマネジメントシステムを定期的に見直します。

6. 内部監査

本方針及びEHS目的・目標への適合性を評価するため、定期的に内部監査を実施します。

7. 教育訓練

組織で働くまたは組織のために働くすべての人に本方針を周知させ、また、EHSの重要性を認識させ、自覚を持った行動ができるよう教育・啓発します。

8. 社会との共生

EHS活動の推進にあたっては、地域社会と協調して行います。

9. EHS方針の公開

本方針は、社内外に公開します。

2005年11月1日

杏林製薬株式会社
EHS担当役員
取締役総務部担当

松本 臣 春

環境・労働安全衛生に関する報告

■ 全社重点目標

1. 2010 年度の達成状況

スローガン 〈EHS - hope100〉		杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します	環境	CO ₂ と廃棄物の排出量削減	労働安全衛生	労働安全衛生対策の100%履行
重点目標		達成状況				
研究部門・製造部門： 新たな CO ₂ 削減プロセスを検討する。 環境 2015 年度：対 2009 年度比 25% 減 (21,099 t → 15,824 t) 廃棄物の低減：最終処分率 5% 以下 社会貢献活動の推進 労働安全衛生 休業労災 ZERO の実現 * 休業労働災害：1 日以上の欠勤をカウント		環境 ◎ CO ₂ 排出量 20,187 t 排出 環境 ◎ 廃棄物量 全体 1,259 t、最終処分率 2.7% ◎ 最終処分率 2.7% 労働安全衛生 ◎ 休業労災 0 件				
営業部門： 安全運転、効率的な運転による燃費の向上 環境 (13.0 km/ℓ 以上を目標) 日々の営業活動での環境と社会への貢献 労働安全衛生 車両事故の削減 事故率 5% 以下への具体策検討 事故件数：108 件以下を目標		環境 ◎ 営業車両燃費 12.5km/ℓ 環境 ◎ 販促資材 事業所在庫低減 労働安全衛生 ◎ 車両事故 202 件発生 (50% 以上有責事故) 事故率 22.4% (202 件 / 900 台)				
本社部門： 環境 オフィスの効率的運用 労働安全衛生 心身の健康への自覚喚起		環境 ◎ オフィス整理整頓徹底 環境 ◎ オフィスの効率的運用 ・ 文房具の再利用促進 労働安全衛生 ◎ メンタルヘルスとメタボリック予防実施				

全社対応

改正省エネ法の施行となった 2010 年度は、2010 年 11 月末に定期報告書と中長期計画書を提出し、法的な対応を行いました。また CO₂ 排出量の削減策を検討するために、引き続き CO₂ 削減プロジェクトを立ち上げ、杏林製薬各事業所と共にと共に対策案を検討いたしました。

研究開発部門・製造部門

2010 年度より EHS-HOPE100 の新たなスローガンを掲げ、CO₂ 排出量については「2015 年度までに 2009 年度比 25% 削減」を目標として活動しています。2010 年度の排出量は 20,187 トンとなり、目標値 15,824 トンに向け、設備導入や省エネ対策を実施しています。廃棄物最終処分率は、リサイクル化に努めた結果 2.7% となりました。目標の 5% 以下を達成することができました。

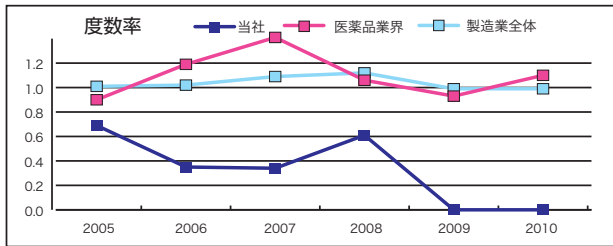
休業労災の発生はありませんでした。休業を伴わない労働災害事故は 7 件発生しました。いずれも、各事業所で適切に対応し、再発防止策を実施しました。その他、労働安全衛生では、特殊健康診断を実施し社員の健康管理を実施しています。

○ 当社の度数率・強度率について

当社は、労災事故防止の取り組みにより度数率・強度率とも、製造業全体の水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

当社集計

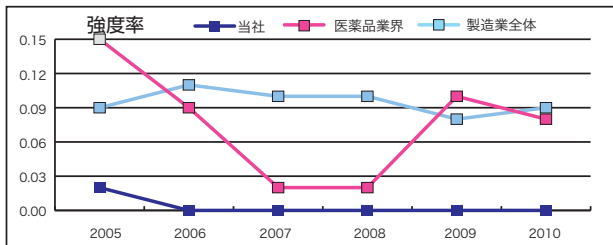
年度	労災件数	通院のみ	休業1～3日	休業4日以上	延損失日数	従業員数
2005	8	6	1	1	71	1502
2006	2	1	0	1	7	1488
2007	4	3	0	1	7	1517
2008	4	3	1	1	15	1716
2009	2	2	0	0	0	1724
2010	7	7	0	0	0	1804



度数率

年度	当社	医薬品業界	化学業界	製造業全体
2005	0.69	0.90	0.90	1.01
2006	0.35	1.19	0.88	1.02
2007	0.34	1.41	1.10	1.09
2008	0.61	1.06	0.84	1.12
2009	0.00	0.93	0.72	0.93
2010	0.00	1.10	0.72	0.99

* 2010年度の医薬品業界は2005年～2009年の平均値



強度率

年度	当社	医薬品業界	化学業界	製造業全体
2005	0.02	0.15	0.07	0.09
2006	0.00	0.09	0.10	0.11
2007	0.00	0.02	0.04	0.10
2008	0.00	0.02	0.07	0.10
2009	0.00	0.10	0.13	0.08
2010	0.00	0.08	0.04	0.09

* 2010年度の医薬品業界は2005年～2009年の平均値

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（災害発生の頻度を表す）
算出方法 = 労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数 × 1,000,000

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す）
算出方法 = 延実労働損失日数 / 延実労働時間数 × 1,000

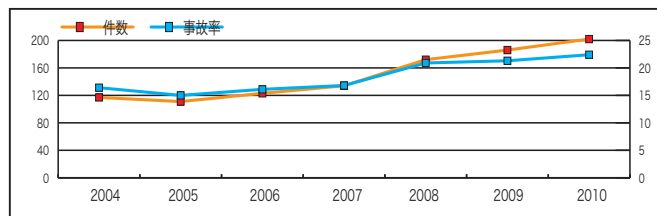
営業部門・本社部門

燃費の向上については、年度平均で12.5km/ℓ（営業車両1台あたり）と目標である13.0km/ℓ以上を達成することができませんでした。2010年度は夏場の猛暑が影響し、7月～9月の燃費が低下したことが影響していると考えられます。2010年度もプリウス・インサイトを導入し、燃費向上と事故防止の両面からエコドライブを推進しました。さらに、防犯の意味からも車内に荷物を置かないことを徹底した結果、燃費が向上しました。

車両事故の削減については、支店管理者への直接的な指導、コーナーセンサーの導入や事故多発者にドライブレコーダーを設置するなど新たな対応策を実施しましたが、202件（事故率：22.4%）と前年度の186件（事故率21.3%）を上回りました。車両事故について、2011年度はこの事態を深刻に受け止め、関係部署とも協力し、事故防止策を推進して事故削減に取り組んでいきます。

車両事故件数（当方責任50%以上）物損事故のみも含む

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
件数	117	111	123	134	172	186	202
事故率	16.4	15.0	16.1	16.8	20.9	21.3	22.4



本社においては、昨年と同様オフィスの整理整頓を再徹底しました。また本社員員の健康管理への取り組みとして、メンタルヘルスおよびメタボ予防に関する各種情報提供やエレベーターを極力使用せず、階段の利用を促進するなどの対策を行いました。3月11日の東日本大震災以降は、本社屋で電灯の間引きや昼休みの一斉消灯などの節電を実施し、2011年3月～6月の間で前年より月平均28%程度の電力を削減することができました。

2. 2011 年度の目標

2011 年度 スローガン：EHS - hope100

重点目標

杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

環境 CO₂と廃棄物の排出量削減

労働安全衛生 労働安全衛生対策の100%履行

研究開発部門・製造部門：

環境

◎ CO₂削減策の検討と実行

2015年度までの目標：対2009年度比25%減（21,099トン→15,824トン）

* 2011年度は19,339トン以下のCO₂排出量を目標とする。

◎ 廃棄物の低減 最終処分率を5%以下

◎ 社会貢献活動の推進

労働安全衛生

◎ 休業労災0件の実現

※ 休業労災：1日以上欠勤を休業労働災害とする

営業部門：

環境

◎ 安全運転、効率的な運転による燃費の向上（営業車両1台あたり平均13.0km/ℓ以上を目標）など日々の営業活動を通じた環境と社会への貢献

◎ キョーリンスマイルプログラム(*)を通じた社会貢献活動

労働安全衛生

◎ 車両事故の削減 事故率5%以下への具体策検討

本社部門：

環境

◎ オフィスの効率的運用

労働安全衛生

◎ 心身の健康への自覚喚起

*キョーリンスマイルプログラム：全社的に取り組む社会貢献活動

全社対応

2011年度は、2011年7月末までに定期報告書と中長期計画書を提出し、法的な対応を行います。またCO₂排出量の削減策を検討するために、引き続きCO₂削減プロジェクトにて、杏林製薬各事業所と共に対策案を検討し、CO₂削減に取り組んでいきます。

研究開発部門・製造部門

2011年度のCO₂排出量（工場、研究事業所計）は、2010年度に掲げたスローガン「EHS-HOPE100」を基に、2015年度の目標値に向けた省エネ対策を実施していきます。特に節電については前年ピーク比25%削減を自主目標として取り組みます。廃棄物最終処分率は5%以下を目標とします。また、各事業所で実施している社会貢献活動の内容について全社共有を図り、全社で社会貢献活動に積極的に取り組みます。

労災事故は、2011年度も休業労災0件を目指します。

営業部門・本社部門

2011年度は、前年度と同様に燃費13.0km/ℓ以上（営業車両1台あたり）を目標とします。引き続きエコドライブを励行するなど、できるだけ無駄な燃料を使用しないように啓発します。

車両事故件数については、少なくとも前年実績を下回ることを目標に関係部署とも協力し、事故多発者への指導、教習やドライブレコーダーの導入だけでなく、新入社員に関しては研修中での実車教習時間を増加させるなど、事故削減に向けた新たな取り組みを実施します。

本社では前年度から引き続き節電に取り組んでいきます。また、EHS推進委員によるオフィス巡視等を通じ、オフィスの有効活用を継続して実施します。また社員の健康の維持管理についても、各種体組成計付のヘルスメーターの設置、階段の使用促進など、各自が手軽にできるヘルスチェック、メタボ対策等を実施していきます。

■ 全社における1年間の環境との関わり

対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日

INPUT（資源・エネルギー使用）



電力
1,494 万 kwh



燃料（原油換算）
5,220 Kℓ



原料
3,105 t



資材
860 t



水
230 千 t

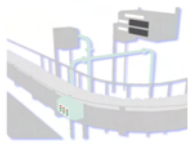


紙使用（A4 換算）
1,384 万枚

業務活動



研究開発



生産



営業活動

製品・サービス



製品



情報

OUTPUT（環境への排出物）

・廃棄物発生量：1,259 t
（内、リサイクル量：468 t）



・大気への排出量：CO₂：20,187 t ※ SO_x：1.5 t
NO_x：82.2 t ばい塵：0.8 t



・水域への排出：BOD 負荷量：0.8 t
総排出量：117 千 t



※定期報告書の計算表をもとに算出した数値となります。
営業用車両が使用するガソリンによる数値は含めていません。

環境に対しての継続的な取り組み

1. 地球温暖化防止

コ・ジェネシステム導入、ボイラー小型化等による燃料使用量削減
 照明・空調運転管理による使用電力削減
 ユーティリティ検討（使用動力源の適正管理）
 エコカー・ハイブリッドカー、低燃費車導入による燃費向上と排気ガス削減

2. 廃棄物発生量の削減

排出量削減とリサイクル促進、最終埋め立て量 ZERO への挑戦

3. 化学物質の管理

PRTR 法対象物質管理と見直し（使用量削減と代替の検討）

4. 大気汚染の防止

ボイラー及び発電機からのばい煙、NOx、SOx 排出量測定・管理

5. 水質汚濁の防止

排水処理棟・一次処理装置による処理、pH・BOD・SS管理

6. 森林破壊の防止

用紙リサイクル、再生紙利用、業務のペーパーレス化推進

7. オゾン層破壊の防止

特定フロン使用機器の早期代替

8. 地盤沈下の防止

地盤沈下発生確認と上水利用率向上

9. 土壌汚染、地表水汚染の防止

タンク地上化と防油堤設置、緊急時対応訓練実施

10. 騒音の削減

騒音測定管理と対応

11. 悪臭発生の防止

ドラフトチャンバー（排気粉塵等吸収排出装置）設置、
スクラバーによる洗浄脱臭



コ・ジェネシステムとは？
 灯油発電機で作った電気を利用し、そのとき発生した廃熱をエアコンなどの動力源に再利用するシステムです。



排水一次処理装置とは？
 排水発生箇所の近くに設置し、排水中のSS（浮遊物質）や油分などを取り除く装置です。



スクラバーとは？
 研究所、工場等から発生する酸性・アルカリ性のガスを中和処理してから大気中に排出する装置です。

（各種取り組み結果によるデータは、別途資料「環境に関するデータ」のとおり）

研究部門の取り組み



創薬研究所

医薬品の探索・創薬研究
栃木県下都賀郡野木町野木2399-1



開発研究所

医薬品の研究開発
栃木県下都賀郡野木町野木1848

創薬研究所・開発研究所は栃木県最南端の野木町に立地し、渡良瀬川・思川・巴波川の三つの河川が合流する渡良瀬遊水地に隣接しています。渡良瀬遊水地は、東京ドーム708個分に相当する日本最大の遊水地であり、首都圏有数の動植物の宝庫として、また人々のレクリエーションスポットとして大きな役割を果たしています。

環境では、全ての研究所において、自然の博物館と言われている渡良瀬遊水地周辺の汚染防止に協力すると共に、地域社会環境・地球環境の保全に努める活動を推進しています。

労働安全衛生では、そこで働く人々が安心して研究開発に打ち込めるよう、安全で快適な職場環境の整備に向け活動しています。

1. 主な取り組み

環 境

【1. 研究事業所共通】

- 創薬研究・開発研究における効率化推進による
 - ◎ CO₂ の削減
 - ◎ 廃棄物の削減と適正管理及びリサイクルの推進
- 方法及び代替品の技術検討による化学物質の
 - ◎ 使用量削減
 - ◎ 大気汚染防止
- 節水や事務用紙の使用量削減、再生紙の使用による省資源化



【2. 創薬研究所】

- 節電に努め、省エネ化を図る
- 業務の効率化による資源の節減
- 地域社会との連携による環境の保全への貢献

【3. 開発研究所】

- 業務改善による省資源化
- CO₂ 排出量抑制 (2009年度 3,600トン→2010年度 3,500トン)
- PRTR・廃棄物発生量抑制
 - ◎ PRTR 排出量削減：(2009年度目標 8トン以下→2010年度6トン以下)
 - ◎ 廃棄物発生量の削減：(2009年度目標 100トン以下→2010年度 90トン以下)
- 社会貢献活動の推進

労働安全衛生

【研究事業所共通】

1. 休業労災 0 件を目指す (休業労働災害: 1 日以上欠勤をカウント)
 - ヒヤリハット、ニアミス事例の職場での報告と EHS 推進委員会での水平展開
 - 安全行動の啓蒙と教育実施
 - 事業場における労働者の心の健康づくり
2. 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク→Bランク以下 (目標案件の 100%)
 - ◆ Bランク→Cランク以下 (目標案件の 50%)
 - 危険評価点数削減のための各種施策実施
 - <実施例>
 - 設備改善や保護具着用による化学物質の人体への障害防止
 - 保護具着用と手順書作成・教育による動物使用時の傷害防止
 - 転落防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
 - ウォーキングラリーへの参加による健康増進 等
3. 棚・ロッカー類の耐震対策の実施



2. 2010 年度活動結果

環 境

【1. 創薬研究所】

- CO₂ 排出量の削減と廃棄物の適正管理に取り組みました。
 - ◎ ノーマイカーディによる CO₂ 削減 2009 年度削減量: 11.9 トン→2010 年度削減量: 11.2 トン
 - ◎ 廃棄物総排出量 2005 年度: 78.5 トン、2009 年度 72 トン→2010 年度 76 トン
廃棄物の削減及び適正管理により 2005 年度比より総排出量で減量することができました。
- 使用試薬等 (プラスミド、siRNA 及び合成試薬等) のデータベース化をはかり、効率的且つ有効な使用を行いました。

【2. 開発研究所】

- 業務改善による省資源化については、14 件の業務改善が行われました。
- CO₂ 排出量は 3,516 トンであり、目標の 3,500 トンにはわずかに届きませんでしたが、昨年と比べて 119 トンの大幅な抑制ができました。
- PRTR 排出量は 2.8 トン、廃棄物発生量は 71 トンと、昨年に比べて大幅に削減でき、目標を達成しました。

【3. その他 (研究事業所共通)】

- 下記について取り組み、いずれも年間目標を達成しました。
 - ◎ 事務用紙の使用量削減
 - ◎ グリーン用品の使用推進
 - ◎ 特定フロン使用機器の代替は、全て完了しました (開発研究所)。

労働安全衛生

【研究事業所全体】

1. 労働災害

◎ 2010 年度：目標（休業労災0件）を達成できました。

2. 危険点数の削減（2010 年度対策実施件数）

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
創薬研究所	対象項目なし	13 項目のうち 11 項目達成
開発研究所	1 項目のうち 1 項目達成	2 項目のうち 2 項目達成

3. 2011 年度の取り組み（研究部門重点目標）

環 境

【1. 創薬研究所】

□ CO₂ 排出量の削減

◎ 2010 年度排出量：2800 トン → 2011 年度排出量：2700 トン

◎ 車通勤による CO₂ 排出量を抑制（10 トン/年）

（ノーマイカーディの実施による排出量の抑制）

□ 化合物等の適正管理と廃棄物削減

◎ 化合物・試薬等のデータベース化による使用量抑制

◎ 廃棄物埋立処分率削減 5%以下とする

【2. 開発研究所】

□ 業務改善による省資源化

□ CO₂ 排出量抑制（2010 年度 3500 トン → 2011 年度 3450 トン）

□ PRTR・廃棄物発生量抑制

◎ PRTR 排出量削減：2010 年度目標 6 トン以下 → 2011 年度 5 トン以下

◎ 廃棄物発生量の削減：2010 年度目標 90 トン以下 → 2011 年度 80 トン以下

□ 社会貢献活動の推進

労働安全衛生

【1. 研究事業所共通】

□ 休業労災 0 件の実現

□ 危険評価点数の低減

◆ Aランク→Bランク以下（目標案件の100%）

◆ Bランク→Cランク以下（目標案件の50%）

□ ワークライフバランスによる心身の健康

(A, B, Cランクについて)

労働安全衛生上危険側面と思われるものを特定し（拾い出し）、その特定要素ごとに3段階の点数評価をします。（5点：重大・多い・高い、3点：普通・中程度、1点：軽微・少ない・低い）

その評価合計点数からA、B、Cランクを設定します。

評価合計点数が 11～15 点

評価合計点数が 6～10 点

評価合計点数が 3～5 点

A ランク：著しい危険側面として早急な改善が必要な危険側面

B ランク：危険ではあるが早急な改善が必要でない危険側面

C ランク：危険性が微小であり特に配慮を要しない危険側面

製造部門の取り組み



能代工場

医薬品原薬・医薬品の製造
秋田県能代市松原1



岡谷工場

医薬品の製造
長野県岡谷市湖畔1-14-3

能代工場は1995年に操業開始しました。秋田県北部沿岸地域に立地し、世界遺産の白神山地と一級河川の米代川、そして海の幸を提供してくれる日本海と自然環境に恵まれた環境です。2006年4月には「人に優しく、環境に優しい」をコンセプトとした新製剤棟を新設し主力工場として稼動しました。省エネルギーと地球環境に配慮した活動を目指し、当地の自然を守っていくことが当工場の社会的使命と考えています。

岡谷工場は1948年に操業開始し、天竜川の源となる長野県諏訪湖畔に位置しています。蓼科高原、白樺湖、車山、霧ヶ峰高原、諏訪湖など四季の彩りに恵まれた、澄んだ空気と水と緑にあふれ、自然環境に恵まれた岡谷市の一角にあります。諏訪湖周辺では諏訪湖の水質保全と周辺の美化を守る「諏訪湖アダプトプログラム」活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションと社会への貢献に努めています。

1. 主な取り組み

環 境

【両工場共通】

1. 電力・燃料の削減（生産性向上による無駄の排除）
 - 照明・空調機器などの運転方法改善
 - 省エネタイプの製造設備の導入
 - ユーティリティの検討
2. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
3. CO₂ 排出量の削減
 - コ・ジェネ設備導入等による効果向上
 - 自家発電装置及びボイラーの効率的な運転
 - ノーマイカーデイの実施やアイドリングストップ運動の実施
 - マイバッグによるレジ袋の削減
4. 工場周辺の美化活動による環境保全



労働安全衛生

【両工場共通】

1. 休業労災 0 件をめざす（休業労災：1 日以上欠勤を休業労働災害とする）
 - ヒヤリ・ハット、ニアミス事例の職場での報告と EHS 推進委員会での水平展開
 - 安全行動の啓蒙と教育実施
 - 当社以外の作業従事者（請負社員・派遣社員）へ、社員と同レベルの安全教育実施
2. 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク→Bランク以下（目標案件の 100%）
 - ◆ Bランク→Cランク以下（目標案件の 50%）
 - 危険評価点数削減のための各種施策実施
 <実施例>
 保護具着用と手順書作成・教育による機械等操作時の傷害防止
 転倒防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
 安全体操・教育などによる VDT 作業障害の防止
 ウォーキングキャンペーンへの参加による健康増進 等
3. 棚・ロッカー類の耐震対策の実施



2. 2010 年度活動結果

環境

【1. 能代工場】

- 製造ロットあたりの CO₂ 排出量の抑制
 目標：6.5 t/1ロット以下とする → 2010 年度実績：5.3 t/1ロット
 <主な取組>
 - ・コンプレッサーからボンベへの変更による電気量の削減（合成）
 - ・溶解釜洗浄時方法の抽出及びテスト実施による使用量の削減
 - ・MA システムの導入を検討し、水処理剤の使用量削減
- 廃棄物発生量の削減
 目標：2010 年度目標：650 t（2009 年度実績：660 t）
 <主な取組>
 - ・エタノールの使用量（洗浄）削減
 - ・ペーパータオルの廃棄量ゼロ
 - ・不良錠の削減
 - ・排水処理施設から排出される脱水汚泥量の削減
 - ・作業標準書、製造指図記録書の両面印刷を実施による紙の使用量削減
 - ・PTP 屑の調査を実施し、エンビ・アルミの使用量削減
- 工場周辺地域の美化活動
 <主な取組>
 - ・風の松原を守る市民ボランティア大会
 - ・能代クリーンアップごみゼロ運動（能代市役所周辺）
 - ・COK20（能代市が管理する歴史的建造物である旧金勇の清掃活動）
 - ・能代クリーンアップ活動（国道7号線沿い）



環 境

【2. 岡谷工場】 基準年度：2009年度

□ 電気使用量の削減

目標：2009年度（使用量 154 万 kwh）比 7.5 万 kwh 削減

→ 4 万 kwh 増加（2010 年度使用量 158 万 kwh）

□ 廃棄物量の削減

目標：2009 年度発生量 166 t 以下にする

→ 12 t 削減（2010 年度発生量 154 t）

廃棄物の削減とリサイクル化の促進を最重点の取り組みとして実施し、年間目標を達成することができました。

□ 諏訪湖周辺の美化活動 活動者：延べ 241 名

諏訪湖アダプトプログラム 8 回／年活動

岡谷湖畔公園清掃活動 4 日／年活動

労働安全衛生

【両工場共通】

1. 労働災害

◎ 2010 年度：目標（休業労災 0 件）に対し、

能代工場では休業労災は発生せず、目標を達成できました。

岡谷工場において休業を伴わない労災が 2 件発生しました。

<休業を伴わない労災 2 件>

・機器に頭部が接触し、右前頭部が切れた。

・夜構内凍結路面で転倒し手首を痛めた。

再発防止策を実施し、工場内の推進委員会で事故の報告を行い、また両工場で情報共有を行い、水平展開を図りました。

2. 危険点数の削減（2010 年度対策実施件数）

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
能代工場	該当なし	14 件→13 件達成
岡谷工場	該当なし	39 項目全て達成

3. 2011年度の取り組み（製造部門重点目標）

環 境

【 1. 能代工場 】

- 製造ロットあたりの CO₂ 排出抑制
 - ◎ 6.0 t / ロット以下とする
 - ◎ 2010 年度排出量：11,257 トン → 2011 年度：11,000 トン
 - * 2009 年度排出量：11,500 トン
- 廃棄物発生量削減（2010 年度：611 トン → 2011 年度：600 トン）
- 工場周辺地域の美化活動及び社会貢献活動の推進

【 2. 岡谷工場 】

- 電気使用量と廃棄物量の削減
 - ◎ CO₂ 削減策の検討と実行：2010 年度 1,293 トン → 2011 年度 1,133 トン
 - ◎ 廃棄物量の削減（2010 年度 154 トン → 2011 年度 154 トン以下）
- 諏訪湖周辺の美化活動
 - ◎ 活動者：延べ241名
 - ◎ 諏訪湖アダプトプログラム 8回/年活動
 - ◎ 岡谷湖畔公園清掃活動 4日/年活動

労働安全衛生

【 両工場共通 】

- 休業労災 0 件の実現
- 危険評価点数の低減
 - ◆ Aランク → Bランク以下（目標案件の100%）
 - ◆ Bランク → Cランク以下（目標案件の50%）



営業部門の取り組み

全国 13 支店、87 営業所 (2009 年度末現在)

当社では 2004 年 7 月に業界初の支店・営業所での環境マネジメントシステム ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。

MR 活動においても、環境と労働安全衛生に配慮しています。



1. 主な取り組み

環 境

1. 販売促進資料のオンデマンド指向 (必要時に必要数をMRが発注できる仕組み) での効率化
2. ガソリン使用量削減
 - 運転時の啓蒙 (荷物積下ろし時のアイドリングストップ、必要最小限のDI資料の搭載 効率的運転で燃費向上を啓蒙 等)
 - エコカー、ハイブリッドカーの積極的な導入
(弊社エコカーの定義: 2000 年基準 75% 低減車以上)
3. 紙の使用量抑制 (裏紙使用、複合印刷機による両面・縮小印刷 等)
4. 電気使用量の削減 (空調温度設定: 冬季 21℃、夏季 27℃、パソコンのこまめなオフ、昼休み消灯 等)

労働安全衛生

1. 自動車事故防止対策
 - 洗車の励行および管理者による運転免許証確認
 - 交通安全キャンペーンの継続、全国交通安全運動と連動した取り組み
 - 意識高揚のための交通安全ステッカー
 - 交通安全ビデオによる搭乗者教育
 - ヒヤリハット報告の積極的提出と情報共有
 - 新入社員向け特別運転教習訓練
 - 豪雪地帯への転勤者への特別運転訓練
 - リアコーナーセンサーの導入
 - 事故多発者へのドライブレコーダーの導入
2. 感染予防対策

医療機関訪問が主な業務であるため感染予防対策を徹底しています。

 - 帰社時の手洗い・うがいの励行
 - 冬季のインフルエンザワクチン接種 (一部補助) による感染予防対策実施
 - リスク管理委員会の感染予防通達の徹底
3. その他
 - 防災対策 (防災訓練の実施、避難経路図の掲示と教育 等)
 - 健康増進策 (ウォーキング・キャンペーン、健康相談、メンタルヘルス対策 等)



毎年新入社員研修の一環として、特別運転教習訓練を実施しています。

2. 2010 年度活動結果

環 境

- MR行動管理システムを改良し、オンデマンド指向での販売促進資料の有効活用と、在庫回転率向上を行ないました。
- ガソリン使用量削減として、社有車はほぼエコカーとなっており、ハイブリッドカーは、2011年7月現在174台導入しております。
エコドライブの励行など燃費向上を啓発しましたが、営業車両1台あたりの燃費は2010年度が12.5km/ℓとなり、前年の燃費(12.5km/ℓ)を維持するに留まりました。
- 用紙利用について、2009年度744万枚に対し、2010年度842万枚と増加しました。
MR増員および製品プロモーションによる資料増加が原因ですが、今後とも裏紙使用や複合印刷機による両面・縮小印刷により、用紙の無駄をなくすよう努めます。
(MR一人あたりは、2009年度10,192枚→2010年度11,093枚と増加しました。)

労働安全衛生

車両事故は、2009年度186件に対し、2010年度202件と大幅に増加となりました。主な原因は、約半数が駐車場内での接触で、次いで交差点での追突等が占めています。2010年度は継続した事故削減活動(各支店への直接指導、運転記録証明を基にした指導、リヤコーナーセンサー導入、入社内定者への啓発等)と共に、事故多発者へのドライブレコーダの導入など車両事故防止策に特化して取り組みました。新入社員については、導入運転教習時間を増やすことで、2009年度新入社の員事故率68%から2010年度新入社員の事故率33%に低減することができました。

3. 2011 年度の取り組み (営業部門重点目標)

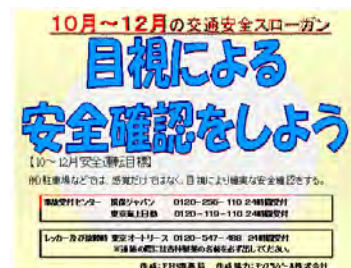
環 境

- 効率的運転で燃費向上(目標:13.0km/ℓ以上)
 - 雑・無駄運転の防止、エコドライブの励行(荷物積み下ろし時のアイドリングストップ)
- ウリトス販売によるCO₂削減効果換算(水・電気の使用削減)
- キョーリンスマイルプログラムとの連動(エコバッグ、ペットボトルキャップ収集等)
(キョーリンスマイルプログラム:全社的に取り組む社会貢献活動)



労働安全衛生

- 車両事故発生件数の削減
 - 支店別削減目標による取組み(全社で122件以下/年)
 - 上司による車両点検
 - 支店・営業所での安全施策実施
- メンタルヘルスに関する啓発



各MRに配布し、車内掲示して意識付けを行っています。

本社の取り組み

◆ ————— ◆
 本社においては、支店営業所とともに 2004 年 7 月に環境
 マネジメントシステム規格 ISO14001 及び、労働安全衛生
 マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。
 ◆ ————— ◆



本社

東京都千代田区神田駿河台2-5

1. 主な取り組み

環 境

1. オフィスの効率的運用
 - 用紙・電気の使用量削減
 - 事務用品リサイクル推進
 スマイルプログラムとの連動（エコバック、ペットボトルキャップ収集等）
2. 電気使用量の削減
 - 空調温度（空調温度を冬季 21℃、夏季 28℃に設定）
 - 昼休みのパソコン電源オフと消灯
 - 階段の使用促進（エレベーターは極力使用しない）
3. 紙の使用量を把握・削減、エコペーパー・裏紙使用の利用促進

労働安全衛生

1. 社内での感染を予防
 - 食堂に手洗い薬・トイレにうがい薬設置
 - マスクの外出時着用の励行
2. パソコンの作業障害（目の疲れ、腰痛）を削減
 - VDT作業姿勢のチェックポイントのポスター掲示
 - 1時間に1度は目を休めるように啓発
3. 防災対策
 - 防災訓練（7月・1月）、防災対策用品整備、設備・器具等の定期点検
 - 普通救命士講習の実施
4. 気分リフレッシュによる快適な職場環境を実現
 - 毎週末フリーウェアデーと年間を通してノーネクタイの実施
 - 有給休暇活用によるリフレッシュとノー残業デイ設定（週1回以上の定時退社を推奨）



2. 2010 年度活動結果

環 境

1. 本社電力使用量は 104 万 kwh となり、前年度を 5 万 kwh 上回りました。
今後も引き続き電気使用量の削減のため、空調の温度設定や消灯の徹底などの活動により電力使用量を削減していきます。
2. 用紙使用量は 319 万枚と、前年度を 5 万枚下回りました。
理由は、新薬プロモーションや各種申請書類での増加によるものです。今後とも裏紙使用や複合印刷機による両面・縮小印刷により、用紙の無駄をなくすよう努めます。

労働安全衛生

1. 本社ビル内に設置した AED 装置の使用法について 17 名が
神田消防署にて普通救命講習を受講しました。
2. メンタルヘルスについての各種基礎知識を発信し周知しました。
3. 新型インフルエンザ流行への対応として、マスクの購入・備蓄や、
手洗い・うがいの励行、消毒液の使用促進を実施しました。



3. 2011 年度の取り組み（本社部門重点目標）

環 境

- オフィスの効率的運用
 - 用紙・電気の使用量削減
 - 事務用品リサイクル推進
- キョーリンスマイルプログラムとの連動
(エコバッグ、ペットボトルキャップ収集等)
(キョーリンスマイルプログラム：全社的に取り組む社会貢献活動)
- 節電対策 (4 月～9 月末) を実施 (空調温度設定：28℃、蛍光管の間引き等)



労働安全衛生

- 心身の健康への自覚喚起
 - ノー残業ダイの推奨…定時退社／週 1 日以上
 - メンタルヘルスの啓発
 - メタボ対策の啓発
(エレベータは極力使用しない / 階段にカロリー表示)



その他全社での取り組み

1. メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスの取り組みについては、新入社員教育やイントラネットにより、各自が心の健康を維持するための基本的な知識習得や情報提供を進めており、外部 EAP（従業員支援プログラム）とも契約して、社員およびご家族の方が気軽に相談できる体制を整えております。

また、管理者研修のカリキュラムとして、管理者の部下に対する配慮や注意すべき点、部下が心に不調を来たした場合の対処法を身につけ予防に努めています。そして、社員に疾患が発生したときには、所属部署・人事部・産業医・専門医と連携をとり、健康の回復、職場復帰に努めています。



2. 子育て支援対策

当社は、社員の仕事と家庭（子育て等）が両立しやすい環境をつくるために、様々な施策を実施しています。また、仕事と家庭（子育て等）を両立する社員を職場全体で理解し、協力し合ってサポートしていただける体制作りにも取り組んでいます。

1. 支援金

- 出産育児支援金・・・70万円
- 入学支援金・・・小・中学校30万円、高校・高専・短大40万円、大学80万円

2. 育児休業制度

- 子どもが1歳6ヵ月に達するまで、または1歳到達直後の3月末日まで休業可能

3. 出産・育児に配慮した柔軟な勤務制度

- 短時間勤務制度・・・妊娠中および子どもが3歳到達直後の3月末日まで、勤務時間を30分単位2時間まで短縮可能
- 所定外労働の免除・・・子どもが3歳到達直後の3月末日まで

4. 子の看護休暇制度

- 小学6年生までの子で、看護・予防接種・健康診断が必要な場合、子1人につき年間5日、2人以上のとき年間10日取得可能
- 積立年休（有給）を利用可能

5. 配偶者出産休暇

- 配偶者の出産時に2日の特別有給休暇が取得可能

6. 再雇用（ジョブ・リターン）制度

- 妊娠・出産・育児のため退職した社員の再雇用

3. 健康保険組合の保険事業

当社は労働安全衛生活動の全社展開に当たり、杏林健康保険組合の保健事業と連携を取り、従業員や家族の健康管理のための成人病検診、主婦検診等、下記の健康増進策を図りました。

1. 検診項目の充実

- 生活習慣病検診・・・胃部検査（X線検査、ペプシノーゲン検査）、腹部超音波検査、大腸癌検査、眼底検査、前立腺検査（PSA検査）、喀痰検査
- 婦人科検診・・・子宮癌検査、乳癌検査
- 被扶養者検診・・・生活習慣病検診（喀痰検査除く）及び婦人科検診に同じ
- 特定健康診査・特定保健指導・・・40歳以上の社員・被扶養者の検診及び保健指導
- ファミリー健康相談・・・育児・急病・慢性病・精神衛生等の「電話健康相談」と専門医を紹介する「ベストドクターズ・サービス」
- インフルエンザ予防接種補助・・・予防接種の一部費用を補助（社員及び家族）

2. 疾病予防面

- 禁煙キャンペーン・・・65日間連続禁煙者に「達成賞」贈呈
- ウォーキング・キャンペーン・・・目標達成者に「記念品」贈呈
- プール補助事業・・・施設と特約を結び、従業員・家族のプール利用を促進

3. 在宅療養支援面

- 保健師派遣事業・・・在宅高齢者のご家庭を訪問し、健康相談、福祉情報の提供



企業の社会的責任

当社は、企業の社会的責任の重要性を認識し、以下のような考え方で企業倫理の高揚と、コンプライアンス体制を整えるべく取り組みを行っています。

当社のコンプライアンスに対する取り組み

【基本方針】

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

また製薬企業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献する価値ある存在でなければなりません。

そして製薬企業の一員として当社は、『生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。』という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

【取り組み】

高い倫理観をもって企業行動を展開するために、「杏林製薬企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置しています。

- (1) 「杏林製薬企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。
- (2) 「コンプライアンス・ガイドライン」は、「杏林製薬企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。
- (3) 企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2004年12月よりコンプライアンス委員会を設置しました。
また、各拠点にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

【教育研修】

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内教育を行っています。

- (1) コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別教育（ex. 新入社員教育、新任管理者研修等）において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓蒙活動を展開する。
- (2) 各部門で実施する職能教育等において、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図る。

当社のリスク管理に対する取り組み

【基本方針】

リスク発生の予防に係る管理体制の整備及び発生したリスクに適切に対応し、会社に与える損害を最小にすべく、リスク管理を推進します。

【取り組み】

リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため「リスク管理委員会」を設置いたしました。同委員会の役割は以下のとおりです。

- (1) 潜在リスクを把握するため、関係各部に対しリスクの調査を指示する。
- (2) 潜在リスクが顕在化しないように、関係各部に対し各種規則・業務マニュアル類の整備、従業員への教育・啓蒙等必要な予防措置をとらせる。
- (3) やむなく発生したリスクによる損害を最小にするため、関係各部に対しリスク発生時対応マニュアルの整備、対応訓練（シミュレーション）の実施、保険への加入等必要な措置をとらせる。

【教育研修】

各事業所にリスク管理推進担当者を配置し、リスクに対する意識の向上と浸透を図っています。

社会とのコミュニケーション

観桜会

創薬研究所では毎年、樹齢40年を超える桜を見る会を実施しており、今年も多数の方が訪れました。これを機会に当社の環境・労働安全衛生の取り組みを説明させていただきました。



地域産業祭への参加

工場、研究事業所では、地域の産業祭に参加し、当社についてのご理解をいただいております。



開発研究所では毎年地元野木町の産業祭に参加し、杏林製薬のPRと共に、子供達とゲームで一時を過ごしました。

能代工場では能代産業フェアに2007年度より参加し、毎年多数の方々のご来場で大盛況となっております。

納涼祭

開発研究所および各工場では、毎年納涼祭に周辺住民の皆様にご好評を頂いております。また、当社への理解を深めて頂く機会にもなっております。



△ 開発研究所



△ 能代工場



△ 岡谷工場

地域清掃活動

岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受持ち美化活動を行なう諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）を実施し、活動も9年が経過しました。また、社員一斉参加により湖畔公園の清掃も引き続き実施しました。



開発研究所では、会社周辺及び渡良瀬遊水地内の清掃活動を実施しました。



能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている“風の松原”の清掃ボランティア活動に参加しています。また、能代市が管理する歴史的建造物である旧金勇の保存活動として、清掃ボランティアを実施しています。



本社がある御茶ノ水では、年2回千代田区の一斉清掃があり、有志従業員が自主的に参加しています。

その他の活動



開発研究所では、2010年度の観桜会を実施した際、セルフ花（障害者施設）からのパン販売もあわせて実施いたしました。



創薬研究所では、敷地内にじゃがいも畑を作り、野木幼稚園の園児とともにじゃがいも堀りを行いました。



営業所の中には、ケアハウスが企画した納涼会にボランティアとして参加したところもあります。介護者に支援者が付き添い、納涼会を一緒に楽しむことができました。

小冊子：「ドクターサロン」配布

ラジオ NIKKEI で放送している医師向けの番組「ドクターサロン」を冊子にして、当社MRが定期訪問している医師に毎月配布しています。取り上げるテーマは幅広い領域の疾患に関するもので、タイムリーな話題を数多く取り上げており、プライマリケアを中心とした先生方に大変ご好評をいただいております。



スポーツイベントの支援



当社は人々の健康を促す数々のスポーツイベントに協賛しています。特に、子供たちが心身ともに健康に育つよう、応援しています。

毎年恒例の「しもつけサッカーセミナー in 野木」は、好評のうちに11年目となりました。今年もたくさんの応募をいただき、指導は今回もTVや雑誌、新聞でお馴染みのスポーツジャーナリスト中西哲生氏にお願いしました。絶妙なトークと優れた指導で、子供たちを魅了しました。

キョーリンスマイルプログラム

当社は、2007年度よりコーポレートブランド活動の一環として、「笑顔のある社会」の実現を目指して、全社員一丸で具体的な活動を行うことになりました。活動をキョーリンスマイルプログラムと名づけ、「健康はキョーリンの願いです」をテーマに、各職場で様々な取り組みを展開しています。

<主な取り組み>

- ・募金活動（ユニセフへ寄付）
- ・使用済み切手収集（ジョイセフへ寄贈）
- ・ペットボトルキャップ収集（途上国へワクチンを送る）
- ・買い物時にエコバッグ使用
- ・事業所地域周辺の清掃活動
- ・アルミ缶の回収（車椅子の寄贈）
- その他



当社 EHS 活動の歩み

年 月	あ ゆ み	
	環境関係	労働安全衛生関係
1998年	生産部で環境活動方針をとりあげる	
1999年	ダイエット 30 作戦開始 野木工場 ISO14001 認証登録	
2000年	焼却炉全廃 行動憲章・社員行動指針の制定 岡谷工場 ISO14001 認証登録	
2001年	プロジェクター X 作戦開始 能代工場 ISO14001 認証登録	労働安全衛生マネジメントプログラム 導入検討
2002年	諏訪湖アダプトプログラム参加 栃木県保険衛生学会表彰 「環境への取り組み」 創薬研究所、研究センター ISO14001 審査登録に向け取り組み開始	3工場 OHSAS18001 審査登録に向け 取り組み開始
2003年	創薬研究所、研究センター BSI ジャパンによる審査受審 ISO14001 認証登録 営業部門、本社 ISO14001 認証登録に向け取り組み開始	3工場 BSI ジャパンによる審査受審 OHSAS18001 認証登録 創薬研究所、研究センター OHSAS18001 審査登録に向け取り組み開始 営業部門、本社 OHSAS18001 認証登録に向け取り組み開始
2004年	営業部門、本社を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証登録	本社、研究事業所、営業部門を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で OHSAS18001 認証登録
2005年	ISO14001・OHSAS18001 両システムの統合 2006年3月野木工場閉鎖（機能は全て能代工場に移管）	全社として BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証更新、OHSAS18001 認証継続
2006年	ISO14001(2004年版)規格へ切替とあわせ認証継続及び OHSAS18001 認証更新	
2007年	グループ会社への ISO14001 認証取得支援開始	
2008年	グループ会社への ISO14001 認証取得支援・OHSAS18001 認証取得支援開始	
2009年	全社で ISO14001 認証継続、OHSAS18001 認証継続	
2010年	全社で ISO14001 認証継続、OHSAS18001 認証継続	

【 ISO14001（環境マネジメントシステム）認証登録証】

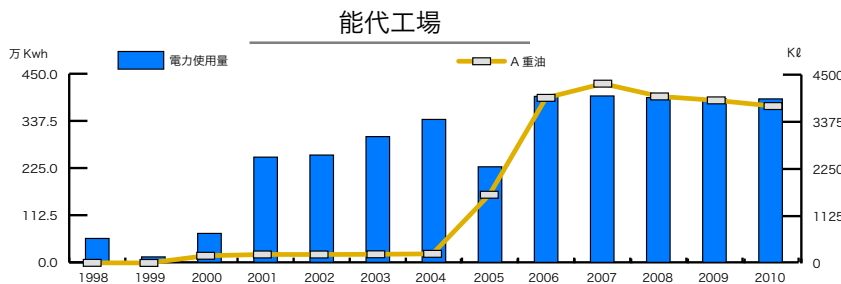
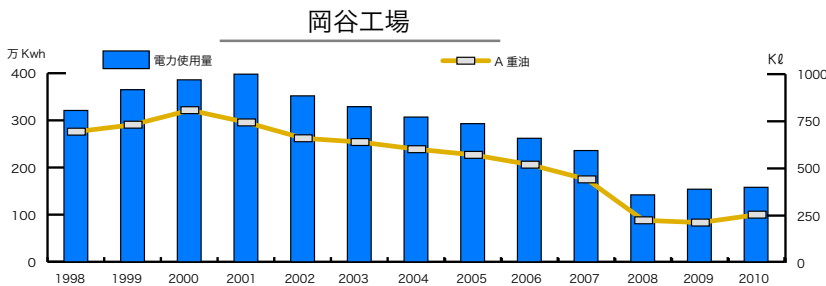
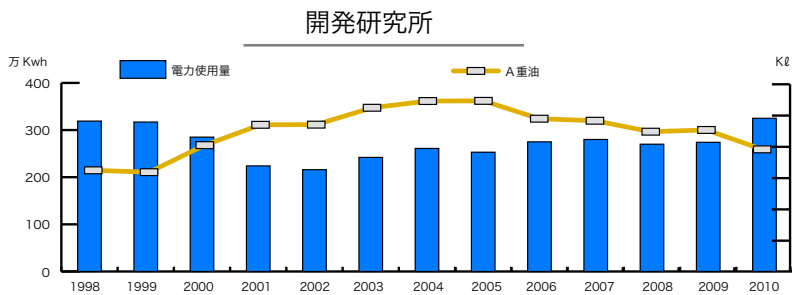
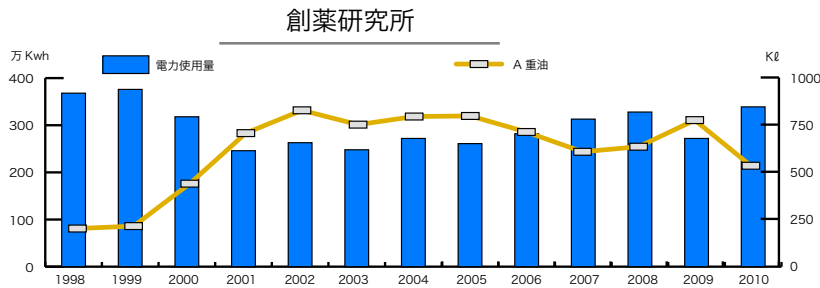
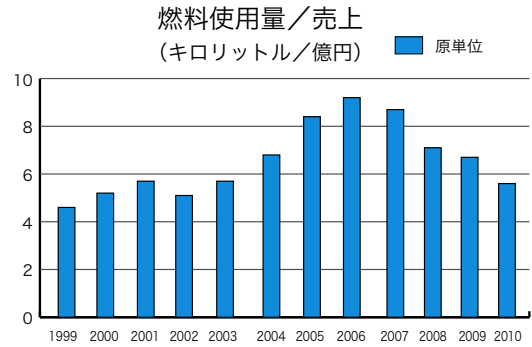
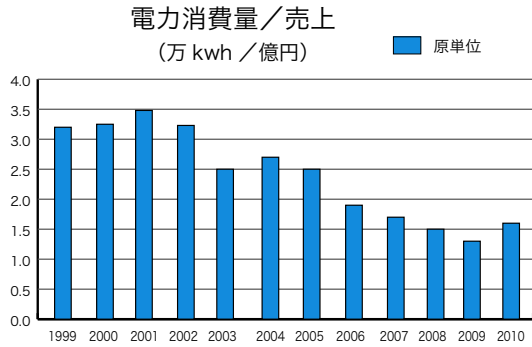


【 OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）認証登録証】



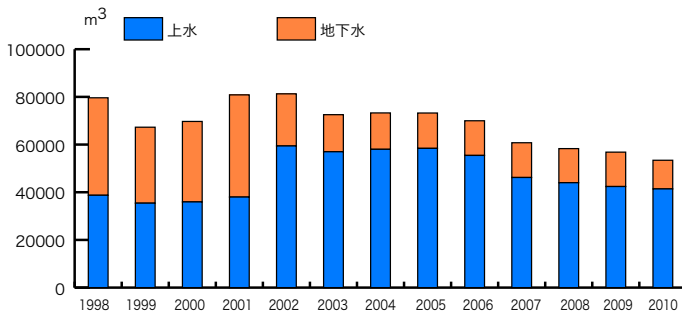
環境に関するデータ

電力・燃料の推移

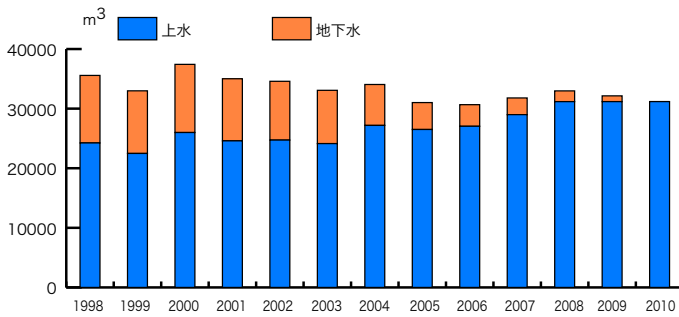


水使用量推移

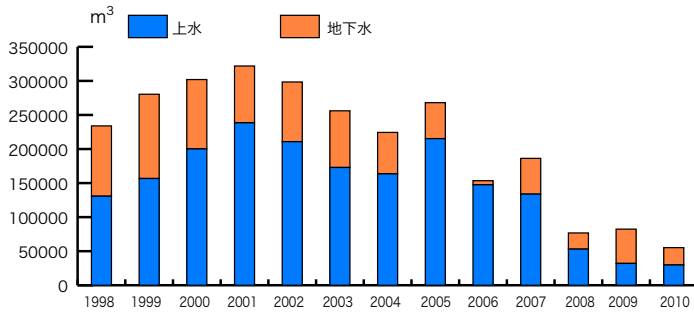
創薬研究所



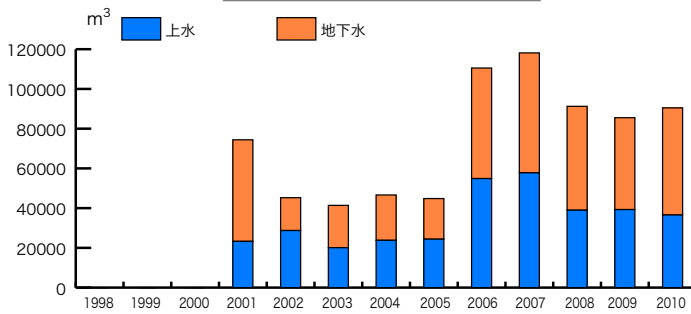
開発研究所



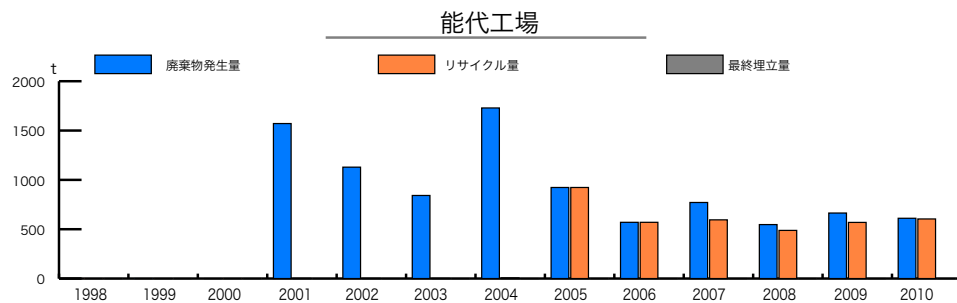
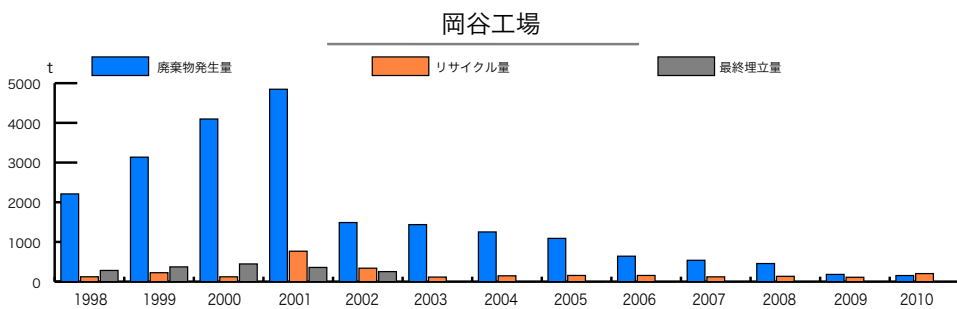
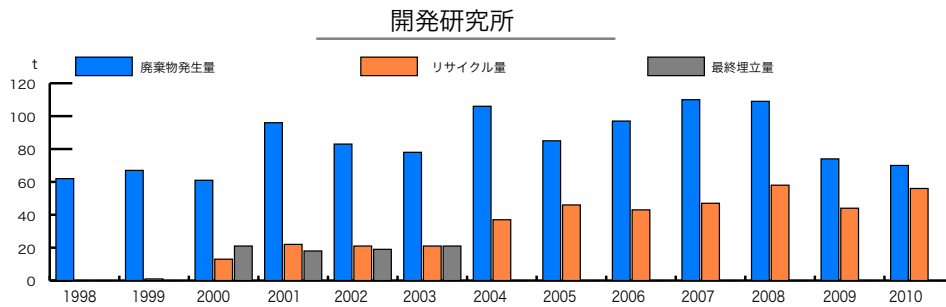
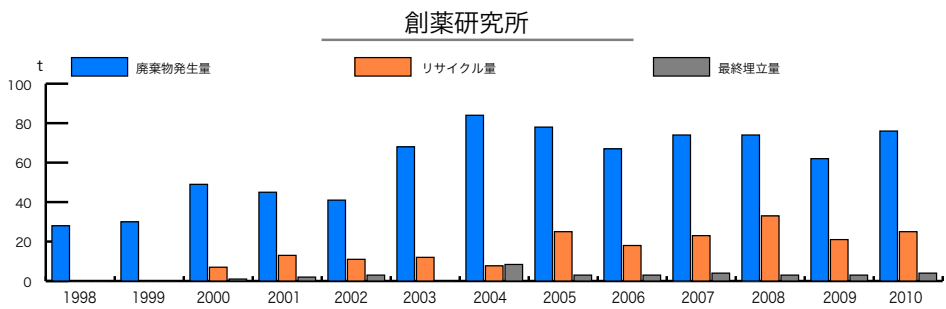
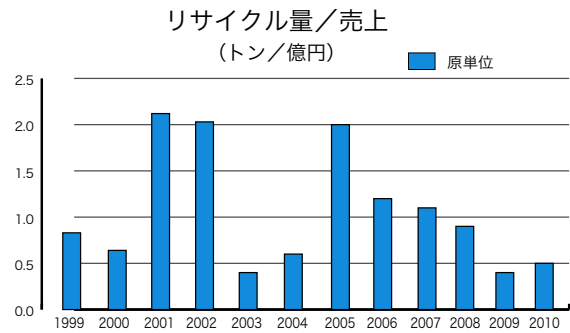
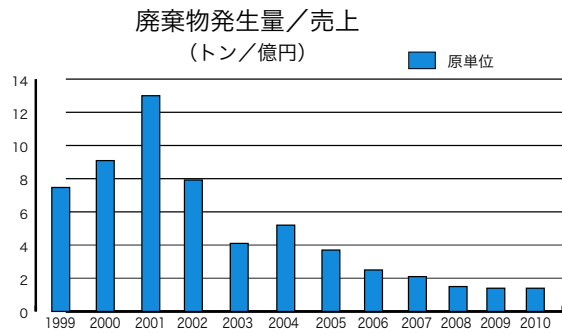
岡谷工場



能代工場



廃棄物発生量推移



排水関係データ

事業所名	区分	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	規制値
創業研究所	PH	7.1	6.9	7.1	7.2	7.2	7.1	7.2	7.2	7.1	5.8～8.6
	BOD	1.06	1.04	1.1	1.4	1.1	1.3	1.1	1.3	1.7	25
	SS	1.0以下	1.0以下	1.0	1.2	1.0以下	3.8	1.3	4.2	5.6	50
開発研究所	PH	7.1	7.4	7.3	7.4	7.3	7.2	7.3	7.3	7.3	5.8～8.6
	BOD	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	25
	SS	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.0ppm以下	1.6ppm	50
岡谷工場	PH	8.2	8.1	8.1	8.0	8.1	7.5	7.7	7.8	7.8	5.8～8.6
	BOD	10	8	9	5	36	12	6	4	3.5	300
	SS	71	31	18	14	71	22	21	13	1.9	300
能代工場	PH	7.2	6.7	6.8	6.7	7.1	7	7.4	7.1	7.2	5.8～8.6
	BOD	11.0	6.5	8.0	8.0	12	10	0.5未満	8.3	12.5	300
	SS	11.0	13.8	1.2	30.0	15	7	5	4.2	7.1	300

煤塵関係データ

事業所名	種類	測定項目	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	規制値	
創業研究所	ボイラー	ばい塵 g/Nm ³	0.003	0.003	0.005	0.0025	0.002	0.0028	0.0035	0.0037	0.0052	0.5	
		NO _x ppm	91	80	78	86	86	97	93	79	79	260	
		SO _x Nm ³ /H	0.018	0.016	0.018	0.016	0.017	0.018	0.0197	0.011	0.011	0.0198	14.5
	発電機	ばい塵 g/Nm ³	0.016	0.022	0.022	0.031	0.022	0.015	0.033	0.046	0.052	0.1	
		NO _x ppm	598	638	623	630	711	681	670	650	553	950	
		SO _x Nm ³ /H	0.009	0.011	0.011	0.006	0.016	0.012	0.018	0.011	0.011	0.012	14.5
開発研究所	ボイラー	ばい塵 g/Nm ³	0.005	0.003	0.003	0.003	0.003	0.009	0.004	0.004	0.004	0.5	
		NO _x ppm	70	88	63	102	79	110	125	88	101	260	
		SO _x Nm ³ /H	0.01未満	0.02	0.013	0.011	0.012	0.002	0.01	0.014	0.014	0.04	14.5
	発電機	ばい塵 g/Nm ³	0.009	0.057	0.078	0.019	0.015	0.02	0.027	0.031		0.1	
		NO _x ppm	567	693	560	639	612	607	650	692		950	
		SO _x Nm ³ /H	0.01未満	0.019	0.014	0.006	0.017	0.007	0.01	0.015		14.5	
野木工場	ボイラー	ばい塵 g/Nm ³	0.005	0.002	0.003	0.002						0.5	
		NO _x ppm	95	75	90	87						260	
		SO _x Nm ³ /H	0.19	0.024	0.023	0.026						14.5	
岡谷工場	ボイラー	ばい塵 g/Nm ³	0.002	0.002未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.3
		NO _x ppm	76	63	73	43	79	50	49	55	55	180	
		SO _x Nm ³ /H	0.040	0.030	0.040	0.047	0.040	0.024	0.023	0.023	0.023	0.022	4.91
能代工場	ボイラー AKP棟	ばい塵 g/Nm ³	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.3
		NO _x ppm	50未満	50未満	50未満	60	50未満	59	55	66	50未満	なし	
		SO _x Nm ³ /H	0.080未満	0.027未満	0.087未満	0.07	0.034未満	0.075未満	0.075未満	0.075未満	0.075未満	0.075未満	1.4
	ボイラー PAK棟	ばい塵 g/Nm ³								0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.3
		NO _x ppm								55	66	92	なし
		SO _x Nm ³ /H								0.01未満	0.01未満	0.01未満	1.4

用紙使用量推移

年度	集計範囲	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
枚数	工場・研究施設・本社	569万枚	493万枚	515万枚	476万枚	541万枚	510万枚	508万枚	466万枚	538万枚	576万枚	546万枚
	全社(支店含む)	--	--	--	903万枚	971万枚	1,015万枚	1,103万枚	1,121万枚	1,220万枚	1,320万枚	1,384万枚

PRTR 使用量推移

化学物質名	使用量									PRTR法の 届け出対象品目
	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	
アセトニトリル	132.0 t	34.7 t	74.2 t	36.6 t	12.4 t	14.5 t	2.8 t	2.3 t	1.8 t	○
エチレンオキサイド	26.4 t	22.5 t	30.0 t	25.9 t	13.6 t	25.3 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
ホウ素及びその他の化合物	7.5 t	3.9 t	8.2 t	4.1 t	1.1 t	1.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
エチレングリコール	1.5 t	1.5 t	0.02 t	0.46 t	0.95 t	0.001 t	0.003 t	0.000 t	0.16 t	—
キシレン	—	—	0.1 t	0.2 t	0.1 t	0.2 t	0.2 t	0.3 t	0.1 t	○
クロロホルム	—	—	0.5 t	0.8 t	0.8 t	0.5 t	2.3 t	1.3 t	1.6 t	○
ピペラジン	120.0 t	99.1 t	77.8 t	75.8 t	42.8 t	3.9 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
トルエン	—	—	0.3 t	0.9 t	2.4 t	2.5 t	1.3 t	0.4 t	0.6 t	○
N,N-ジメチルホルムアミド	—	—	0.4 t	0.5 t	1.8 t	2.1 t	0.5 t	0.3 t	0.6 t	○
ジクロロメタン	0.9 t	0.9 t	1.9 t	1.0 t	1.0 t	0.8 t	1.6 t	1.0 t	1.1 t	○

騒音関係測定データ (2009年度)

事業所名	規制値 (db)		2009年度	2010年度
創薬研究所	昼	65 以下	58	55
	夜	50 以下	40	39
開発研究所	昼	65 以下	48	48
	夜	50 以下	45	44
岡谷工場	昼	70 以下	45	52
	夜	65 以下	47	50
能代工場	昼	65 以下	49	46
	夜	50 以下	45	43

環境会計

□ ■ 環境に関するデータ ■ □

1、環境保全コスト（集計期間 2010年4月1日～2011年3月31日）				単位：万円	
項目	内容	設備投資額（万円）	費用額（万円） ランニングコスト 減価償却費等		
事業所エリア内 コスト	(1) 公害防止コスト	排水処理装置等の維持管理費用等	381	14,196	
	(2) 地球環境保全コスト	CO ₂ 、オゾン等の対策費用	7,005	1,755	
	(3) 資源循環コスト	廃棄物の処理、リサイクル費用		4,921	
上下流コスト		エコペーパー、グリーン備品購入費用等		4,893	
管理活動コスト		審査費用、監視測定、教育等の費用	0	4,712	
研究開発コスト			0	0	
社会活動コスト		地域社会との関係に要した費用	0	210	
環境損傷コスト			0	0	
合 計			7,386	30,687	
2、環境保全効果					
効果の内容	指 標	単 位	削減量 (2010年度)	負荷量（発生量） (2010年度)	
事業所エリア内 における効果	投入資源に関する効果	エネルギーの使用電気	万 kwh	-122	1,494
		燃料の使用 重油	㌔リットル	324	1,571
		燃料の使用 灯油	㌔リットル	136	3,751
		紙の使用	t	-2	55
		化学物質の使用	t	53	632
		溶媒の使用	t	-17	41
	排出する環境負荷及び 削減に関する効果	廃棄物の発生量	t	76	895
		大気への排出量	t CO ₂	2,891	20,187
		同上*	t NO _x	15	82
	排出物のリサイクル効果	排出水	t BOD	0	1
		廃棄物のリサイクル量		199	536
		溶媒の使用リサイクル量		0	0
3、環境保全対策に伴う経済効果				単位：万円	
収 益	廃棄物のリサイクル収入		0		
節減費用使用エネルギーの節減					
経費節減	使用エネルギーの節減		45,712		
	廃棄物のリサイクル売却収入		7		
	廃棄物削減に伴う処理費用の節減		0		
合 計		45,719			

* コージェネの排出量も含む

環境会計算出基準

- ・ 集計は原則全社を対象にしてありますが、一部支店分は未集計です。
- ・ 燃料の使用、大気への CO₂、NO_x 排出量環境省ガイドラインの係数を使用しましたが、営業車両によるガソリンの部分は除外しています。
- ・ 費用算出基礎となる人件費は平均賃金を使用しています。
- ・ 減価償却費は財務会計上の償却額を費用額に算入しています。
- ・ 費用額、環境保全対象に伴う経済効果について不確定項目は除外して算出しました。

本年度の当社における環境会計は、環境省による「環境会計ガイドライン 2002年版」を参照し、算出表示いたしました。

労災件数に関するデータ

工場・研究事業所所在地労災件数データ

